

第4回 山・川・海の連続性を考える県民会議 基調講演②

宇多先生：宇多です。時間があんまりないので、端的にお話をします。

きょうは、去年のこれの第3回のやつパワーポイントを結構持ってきています。同じことを話すのでは全く能がないので、それより進んだ考えを、今日来ていただいた人には見てもらいたいと思います。まずは見てください。

もちろんわれわれはこの、要はこの辺にいるわけですけど、西湘の話、さっき中村県会議員さんのおっしゃるように、直轄化がなされて、この辺でいろんなことが行われるんですけども、ちょっとその前に、こっちのほうで行われていること、あるいはこれから、この辺で今現在行われていること、それからわれわれはどこへ向かうのかと。ここが日本人の一番下手なところで、われわれは10年、20年、30年先どこに向かったらいいのかというのを、後ほどお話ししたいと思います。

で、最初にはちょっと東のほうの湘南の、茅ヶ崎の辺りの話をします。これは、細かな話はどうでもいいんですけど、こっちは相模川の土砂が足りなくなって侵食が起こったと。だいぶへこんでいますけど。そこで何が行われたかというと。

1982年、こういうふうに非常にきれいなビーチで、寝そべっているやつがおりますけど、ここにハマヒルガオが生えて、とてもいいビーチだったんです。それが、これは1982年、覚えといてほしいんですけど。

これが2005年にはこういうふうに全部、海になっちゃった。海になるどころじゃなくて、ここに立っているのは、相棒は、どこかそこらにいる石川なんだけど。ここの所まで行ってみると、波が当たっていた。何だこれはというような侵食が起こっちゃったわけです。これと同等なことが、西湘でもいっぱい起こっているし、ほかの地域でもいっぱい起こっています。

そういったものに対して、どうすりゃいいのだというような話を、私はしたいと。そのときの基本的な考え方は、砂浜を戻せと。ここへ全部、ブロックの山を築いて、あるいは高い塀を築いてやるというのはちょっと、私は同意できない。

それでここは侵食原因はいちいち言わないで、こっちから来る砂が来なくなっちゃったのと同時に、ここに引っ掛かっちゃったと。だから、ここの中央地点で侵食がすごく進んじちゃったというのが原因です。

で、そこで実際にこれは相模ダムの土砂をトラック輸送して持ってきて、あるいは地域から出てくる土砂をここら辺でブレンドして、ここから注入しようということで、ここのビーチが戻ってきました。それは、だからこれはある程度、お金をかけて、材料を入れれば戻すことができる。このとき、当然ここの漁業者の人からクレームがつかないように、あるいはこっちの漁業振興になるようにとか、この漁港の入り口に砂がたまらないようにとか、もろもろあるわけですけど、それを全部クリアすることができます、今の技術でね。

で、実際、何やったかという、割と粒径の大きな粒、レキっていうんですけど、小砂

利を含むようなやつを半分くらい含んで、残りはいわゆる砂を含んだ、大体半々ぐらいの砂を汀線に入れると、非常に自然現象としてはとてもうまくいって、浜の、皆さんも現地を歩いてもらえば分かるんだけど、汀線、渚線近くには小粒のレキがたまる。ちょっと水の中は砂地になって、うんと深い所は本当の細かい砂がたまるというふうに、分級っていうんですけど、見事に分類が波の作用で行われて、そして沖合に堆積するというのが理屈上は分かったし、それも実際にやってみると、ちゃんとそうなるということなので、今、われわれのほうの持っている技術としては、材料がどこで調達できるか。どういう材料か。ダム湖の上流でもいいし、川の河床でもいいし、どこか扇状地の平地から取った砂でもいいんですけど、それがどういう材料かっていうのが分かれば、それがどのように堆積するかっていうのは、今、勘定できる状態になっています。

01 : 05 : 00

それで、これはさっき見た写真ですよ。これ。こうなっちゃおしまいというので、このところでこれを誰がやっているかという、工事主体は神奈川県なんです。これ誉めてやってくださいよ、本当に。うまくいっているから。きょうは、こっちの話がメインじゃないので、どうなったかという話をすると。

こうなった。ここの護岸の所がむき出しになって、波がジャバジャバ洗っていた所のこの辺り、よく見てほしいんだけど。これが。

こうなって、浜、戻ったでしょ。そして、時々現地に行ってみると、キス釣りしているんですよ、おっちゃんが。それで、「あなた、この浜戻ったよね」って、しらばっくれて聞いてみると、「ええ、すごい良くなったよ」と。「どうやって戻ったか」というと、「知らねえよ、俺そんなこと知らねえ」と。ただキスがよく取れるようになったと。それでいいんですよ、行政なんていうのは。いちいち理屈がどうなったかなんていうよりも、結果がオーライならばいいんで。だから、この地域はそういう意味では、今現在も神奈川県のほうで砂入れを続けていますけど、まあまあ地域から需要されているのかなと思います。

で、その後、ちょっと昔の、さっきの中村県会議員さんが言っていた話にちょっと戻すと。2007年、今年2014年だから、さかのぼること7年前。7年前に、この西湘バイパスが1.1キロにわたってドシャツと海に落ちて、あれが交通止めで1日2万台の車が旧1号を通ったんで、大渋滞を起こしたというのはご存じだと思うのです。そのとき何が起こったかという、こういうふうに台風がウロウロとして、一番始末に悪いやつね、エネルギーを持ったやつがこの辺をウロウロとして、まっすぐ北上してきて、神奈川に上陸した。そのとき波の高さがどのくらいあったかという、ここに書いてありますけど、大体6メートルで、一番でかいやつで6メートル。それが、相当でかい波が17時間ずっと続いたんです。そのたびに、この沿岸でえらい目にあったわけです。

それに匹敵するやつは今のところ、あんまり来てない。あんまりというのは、でかい波のやつは時々来るんですけど、長くない。一瞬に韋駄天のように突っ走っちゃう台風的作用というのはそれほど強くないので。ですけど、このときにはすごかったわけです。6メー

トルで、ここにちょっと書きましたけど、4メートル以上の、4.5メートル以上の波が17時間っていうので、これは観測史上最長。で、調べてみると、どうやら最近このでっかい波がうんと立つようになってきつつあるなど。これ神奈川だけじゃなくて、太平洋側はずっと釧路に至る範囲で、ちょっと地球規模の状態です。少し状況があまり、前ほど静かではなくなってきたというのがあります。で、これで何が起こったかというところ。

これは私の撮った写真じゃなくて、これは神奈川県が撮ったんです。2007年9月4日。2007年9月6日に来たんです、台風9号は。その3日前にちゃんと撮っていた人がいて、これがネクスコの金波橋です。それからこれが銀波橋というやつで、この前には砂浜が広がっていた。レキはこっちのほうにあるけれど、見てもらうと、割と勾配のゆるやかな砂浜が確かに広がっていた、台風の前に。いいですか。

それが、こういうふうにしてその3日後、6日に来たので、3日後に行くと、さっき見えた金波橋、これ、この橋の下。砂浜だったんですけども、それが次のようになった、こういうふうにして。このときに、これは橋脚というのはこうなって、下にフーチングというのがあるから、これが砂に埋まっているから、この橋脚を支えているわけなんですけど、このちょうど下で3.5メートルまでいっぺんに17時間の間に地盤がポンと下がったわけ。その砂がどこかに消えちゃった。本当にディスプレイしたんですけど、この地域にはどこに行っても、この砂はもはや見つからないという状態が今も続いています。で、この状態なので、これしようがないからネクスコのほうはこれをもう1回作り直して、今に至っていますが。これは非常にまれに見る現象だから、もう今後起こらないというんだしたら、ほっとけばいいですね。ところがまた起こるかもしれない。そのときどうしようという話が将来に向かってあるわけです。

01 : 09 : 57

それで、これは神奈川県の宣伝になっちゃうな。これ50メートルの長さの突堤を作りまして、300メートルの間を開いて、この中に何したかというところ、この護岸でおおわれた所を元に、もう砂浜、砂レキ浜に戻せるかという質問に対して、やってみようじゃないかというので、これを毎年、土砂を酒匂川の飯泉堰のちよいと下流の砂レキ。砂レキというのは、レキと砂と両方半分ぐらいのものを持ってきて、この橋の下、銀波橋の下に置いて、高波が来たら、どうぞ行ってらっしゃいというふうにしてやる試験を、ここ数年間ずっと続けてきたわけです。その結果、分かったこと。

これが2012年の7月17日。いろんな試験を始める直前の姿です。このときは、これがさっき言った、50メートルの長さの試験的な突堤。これは、もう1個、私が、たっているところのこっち側に東突堤というのがあるから、その間の距離が300メートルです。これがコンクリートがあるでしょう、これ。コンクリート。これはさっき言った、ネクスコの二ノ宮インターの所に入る道路を支えている橋脚の前面、これが引っくり返ると、道路通れなくなるので、この前に護岸を打って、その先にブロックを並べたと。ここまでは道路管理者の仕事。

これでいいじゃないかという意見もあるかもしれない、道路はね。しかし、私たち、私のセンスでいくと、この前に砂レキの浜があってこそ、これらはちゃんと維持できるというセンスからすると、この前に砂浜を戻さなければならない。前々から思っていたわけです。で、神奈川県と一緒にやって、どうなったか。これ覚えてください。2012年7月17日に撮った写真で。

これ。1年ちょいで、2013年11月24日にちょっと見栄えが悪いんだけど、ここの辺りには砂レキ浜が戻って、もう1個、次を進めようかな。

ほら、これ。2013年11月。さっき2012年7月の17日だったので、1年半の間にこれだけ戻った。これ、この、今、私がポインターで示している、このテトラポッドおよびコンクリありますね。これが。

こうなる。つまり、埋め殺しにしちゃえばいいと思っていたわけで、それはできるわけですよ、実際に。材料がありさえすれば。それで、その前に砂浜がちゃんと戻っているでしょう。これは、じゃあ昔に比べて、どうなんやという質問は当然あるので、ちょっとその辺を調べてみようと思います。

これ、反転して、西のほうから向こうを見た姿なんだけれども、2012年7月17日にこれから土砂を入れるぞという、ここら辺に土砂を入れて、スタート時点で、このときはまだブロックが出ていたわけです。Bの所でね。それがここら辺もブロックだらけでしょ。

こういうふうに入土砂を始めると、レキはお山をなして砂がたまる。それも裏側にたまっていく。汀線近くは砂地になる。というふうなことが、これ2013年の11月24日にはちゃんと確認されている。

これ、前ですよ。2006年12月10日。この金波橋の所に砂浜が、今はこうなっている。

それが、次、これ。金波橋の前に砂浜があるでしょ。これは今撮ったんじゃないくて、2006年の12月1日に、これは神奈川県が、どなたが撮ったか分かんないんだけど、災害を受ける前の姿が記録に残されていて、そうするとほぼ同じと。ちょっと違うのは、ここの材質がおおよそ砂で、勾配が緩やかですね。

それが1個前。このときにはレキ質で、ちょっと勾配が急。そういう違いはどうしても出てきちゃう。これは材料の調達で、どういう材料をわれわれが入手できるかというところに依存するわけです。この場合、ちょっと粗いのが難点といえば難点です。

ここのところ、試験区間ではこういう砂浜が戻ってきている。

この人。行って、聞いてみた。この人、「おっちゃん、何釣ってるの」っていったら、キスだって。そうすると、これ実はここのところ、8分の1勾配でストーンと4メートルまで落ちて、その先には30分の1の緩やかなスロープがあって、そこにキスがいるんです。だから、別に環境保全だからって、ブロック並べて、うんと高い堤防を作って、はい、一丁の終わりっていうんじゃないくて、ここはもとは、もともとは歩いたり、散歩したり、こういうことをする人がおった所なので、そういう姿をリカバーするっていうのがやっぱり、本来、法律的に見ても、やっぱり必要なことだろうと。で、それはやればできると思う。

やればできる。なかなか難関なんですけど、そういうことなんですわね。

01 : 15 : 20

ところが、その隣のほうへ行ってみると、これ、これ何たるものだという感じね。これ、道路の前にテトラポッドが置かれて、このこっち側に蛇籠といって、鉄線籠の中に、ここに石ころを詰めた大きな捨て石と、ここも破れて落ちていますが、結構こういう風景がものすごく日本国中広がった。特にこのたびの津波でガタガタにやられた福島から北のほうでは、もう構わず構わずですよ、ブロックを投入して、もうやりやあいだろうっていう。全部、全員がそっちに向かって走っちゃうっていうふうなところがあって、私としては賛成できかねると思うんだけど。

で、こんな所を鉄線がむき出しになっちゃっている姿になると、ここは海岸というよりもゴミ捨て場ですね、巨大な。もう誰も人が行きたくないような風景のものになって、危ないし、惨憺たる風景になるわけです。で、それで海外からお客さんどうぞ来てください。観光立県、神奈川県もそうかな。どんどん行きました。だけど、海岸線近くにだけは行かないでくれという話に、私は聞こえる、見えちゃうんですよ。こういうのを、これをもって整理したからいいっていうのは、何かいかがわしいと、私は思います。道路の、ぶっ壊れたがためにしようがないっていうのはあるかもしれない。だけど、これでおしまっていうんじゃ、もう神奈川の海も終わったなというのを考える県民会議になっちゃうわけで、私はそれは同意できないと。

で、そのちょっと手前側は、まだこんな風景がいっぱい残ってしまして、これは後で国のほうがお話するかもしれないけど、道路の所に、場所打ちコンクリート杭、これは西湘バイパスを昭和40年代につくった当時のコンクリートを直打ちした杭が出ています。その前に、こんな、フィルターユニットっていうのが置いてあるんだけど、これは実はこの上にここ全部並べていたのが、高波を受けて、落っこちちゃって、今グチャグチャな状態なんです。これをさっきの養浜して、リカバーした所と全然、状況が違うでしょう。これ作ってるメーカーはもうかるかもしれないけど、そういうのにどんどこ、どんどこ税金を注入して、誰も行かないような海岸になっちゃうんじゃ、しようがないと、私は思います。

で、神奈川県の方も養浜頑張って入れているんだけど、入れている。これは、酒匂川の土砂を持ってきて、入れているんだけど、この全部がとても深くなっちゃっていますので、ブロックの所に置いたと思ったら、これどんどん、どんどん流出している。今、そういう、まさに状態なのです。これをもうちょっと、こういうのにどんどんいけばいいのかなという話で、もうちょっと考えなきゃならないと、私は思います。これは、今年の5月に撮った写真です。

次。で、さっきのところ、もう1回行ってみると、まあまあ結構いい線だと、私は思うんですよ、風景として。あるいは利用面から見て。これはある程度のお金をかければできるというのが、ここの試験区間での成果だと思います。

それで、これ見ると、要は何が言いたいかということ、砂浜。砂浜を復元するには、養浜

を行うことだよと。つまり土砂を入れろと。それから入れる粒々、レキの大きさ、大きいのか、小さいのか、細かいのはいろいろ考える必要があって、大きなやつをやると、前浜にへばりついている、こういう急勾配になって、砂分は沖合のほうに、30分の1か、50分の1のスロープで堆積しますよ。それは実際に茅ヶ崎中とか、二ノ宮でうまくいっていますよ。だから、それにならってやればいいでしょってするので、ここで終わりにしたいんだけど、ちょっと待てよ。

日本っていうのは、こんな狭いところにすごい多くの人に住んでいるんだけど、海外はどうなっているか。日本と海外はどうなるか。日本はどうもガラパゴス化、携帯がそうになったらガラケーというでしょ。あれに匹敵するのは、ガラ海岸ちゅうような。どうも日本人の考え方、変じゃないかっていうふうに思う、僕は思っているの。いろんな国をめぐるっているわけですよ。別にポルトガルの宣伝に来たんじゃなくて、どこでもいいですよ。USAでもどこでも、イングランドでもUKでもいいのですけど。例えば、ここがリスボンで、リスボンのちょっと北のこの所へ行ってみると、すごく素直な姿がここに見られるんです。

01 : 20 : 02

このナザレという所があって、この白く見えているのは、砂浜です。砂は、これ、北が向こうなので、北西方向から波は、アトランティックオーシャンで波が来るので、こっち向きに砂が動いてくる。この岬が突き出ている所のここにきれいな砂浜があって、こっち側にポケットビーチがある。ここらで見てきたことをちょっとお話ししたい。

次。これ。赤壁のとてもきれいな、とてもいいビーチなんです。この所が岩盤なので、岬のてっぺんに展望台があって、非常に多くの人を訪れている。地方振興上はとにかく観光バスを連れて、この赤い屋根を見に来るというぐらい、リスボンからどんどん、どんどんバスが出ているような、いい、とてもいい観光地です。

これビーチね。このビーチのありようが、ちょっとどうかな。日本と全然違う。これは幅が大体、ここからここまでで200メートルですから、大体200メートルぐらいの浜が、砂浜があるわけです。

で、写真がちょっと悪いけど、このナザレ岬という所を遠くに見て、そこへ行ってみると。北のほうには、こんなものすごく広いビーチがあるわけ。ここにまた、違うんだな、神奈川の海、あるいは日本の海と全然、決定的に違うのは、ゴミがない。日本は、韓国と中国からどんどん、どんどん来ちゃうので、どうにもしょうがないけれども、それにしても汚い。神奈川美化財団がどんどんきれいにはしているけど、それでもやっても、やっても汚くなるけど、普通のこういうヨーロッパの国では、そういうことないんですよ。だから全然違う。これ300メートルぐらいあるのかな。きれいなビーチが広がっている。それは自然条件が違うから、しょうがないのかもしれませんが、ちょっと反転して。

次、南を見てもらおうと、こういうふうにここからケーブルカーであがってこのAという所から展望台があって、ビーチを見下ろすことができる。それを見てみると。ここね。非

常に多くのお客さんが来て、とてもきれいな所で、ここから見下ろすと、こうなるんです。赤屋根の白壁の家がたくさんある。ビーチ、ものすごいきれいでしょ。

それで、ちょっとこれ、変な点線を書いてみたんだけど、これ市街地をつくるときに、ここをこうやって道路をつくって、これをへこませているんです。何でか。汀線がへこんでいるから。日本の都市計画だと、こっちのことは置いといて、まずこっち、点線の上につくっちゃうわけよね。過剰にやり過ぎる。それで、やれ津波が来た、波が来た、何とか。だけど、あなた、そもそも自分たちが、人間が出しゃばり過ぎたのではないのっていうふうに思うところがあまたありますね。だけど、ポルトガルは、聞いたわけじゃないけど、汀線がこうなっている所はちゃんとこういうふうに護岸を引っ込めてつくっている。つまり自然に人間が合わせている。日本は、自然、いや、人間、いやいや人間に自然を合わせようとするものだから、いろんなところで矛盾が起こる。だって、津波だってそうでしょ。むちゃくちゃ出でて、埋立地をやった所がガツンとやられているし、ちゃんと控えめに高さを守っていた所は何とかなっている。そういう点からすると、もうちょっと頭の構造を変える必要があるかなと思うわけです。

で、ここなんかもすごくいいので、ここはビーチの家の前の遊歩道の前、これ濡れている、ウェットビーチというのがあって、これは常時の波はここまで来ている。でも、ちょっとしけた波は大体、浜幅の半分ぐらいは打ち上がる。だから、その裏側は非常にきれいなクリーンな砂浜というふうに、ちゃんと余裕をもってつくっているわけです。だから、こんなところまで利用して、ここに緩傾斜護岸をつくるのか、直立護岸のすごいのをつくるとかというのは、ポルトガルに行ったら、あなた何やっているのというふうに言われちゃう。で、そういうのが、日本ではファミリアというか、普通だというのがちょっと、私はやっぱりおかしいのではないかと今、思っているわけです。やっぱりもっと自然とのバランスからすると、適切な高さは持っている。これだけ持っていれば、高波来たってへっちゃらだよ。そういうところがどうも何か、目先の B/C とかかって、やりたがるのが、日本人かなと。これ行ってみると。

こういうふうきれいなタイル張りの駐車場があって、ここは 60 センチ高い所。砂浜より 60 センチ高いだけだと。ここに、見上げんばかりの堤防はないでしょ。ここも時々すげえ波が渡ることもある。しかし、彼らはここにこういうふうにドーンとすごい堤防を作って、日ごろの観光を台無しにするということは、彼らはやってない。そこは今後よく考えなきゃならないんで、われわれは何をもって食うのかというのが、この地域は観光をもって食っているわけ。で、ものすごい数のお客さんが来る。時たまちょっとつらい目に遭うこともあるかもしれないけど、そういう意味の何かバランスはとっているわけです。

01 : 25 : 25

ここ、Adega Oceano って、この車、われわれ行ったときに、ここへとめてもらって、ここレストラン。ここでリゾットを食ったり、赤ワインを飲んだりしながら、海が見えるわけよ、真正面に。そうやって、その地域にお金がズンズクズンズク、これは湘南海岸の何

だろう、片瀬東浜とか、西浜はちょっとこれに近いけれども、何かなあ、日本って汚らしいんだよね。僕も日本人で残念なんだけど。

それでこっち側へ来ると、はい次。こういうふうにならぬとあるじゃないですか、遊歩道が。ここは即ビーチね。汚くないのね。ここはビーチバレーをやるのをどうぞ自由に。ゴミは捨てるなって、捨てるなというか、捨てるやつもおるので、ちゃんと市が管理して、非常にきれいな状態に保っています。これは、ここのビーチだけじゃなくて、いろんな所、スペインもどこもみんな、あれだけ財政危機でありながら、ビーチへ行ってみると、とてもきれい。がっかり、日本人は一転、ものすごい金使って、汚いじゃないですか。ということですよ。

で、相棒に、お前ちょっと立てと。こういう平底船で、昔やっていた、日本でいうと九十九里の平底船の地引網の船と同じようなものが置いてあった。

それで次。これ、どこかで見た景色ですね、これ。これ、タコ、一夜干しをやっているの。小アジとタコ。ポルトガルに行ったら、日本人の神奈川県民と同じで、シーフード大好き。赤ワインによく合う。こういうのも非常にたくさんやっていて、地域の地場産業っていうか、それが上がってきたやつをそのまま浜でやって、それをまた見に来るんですよ。それをそばのレストランで食うわけ。こんな楽しいことはない。それは、海と浜と、その背後の何ていうかな、住宅地が断絶されてないの。そうやってこの地域はうまくいっているわけですよ。

そうすると、これで終わりだったかな、次。これから直轄海岸でビーチを戻しましょう。いいですけど、安っぽいものを急いでつくるっていうのは情けないんで、情けないと私は思うんですよ。やっぱり本当のいいものを作らなあしやうがないと。財政何とかかんとか、いろいろもちろんあるのは知っていますよ。それから、ここでいうと、材料が、そんなもんないだろうという、つらい指摘が当然あるわけ。砂だって、ダムの上流まで取りに行けば、ものすごい金がかかる。川底にあるのは、量は、レキはあるけれど、それほどたくさん取れない。そうすると、あんたの言うのは書生論で、砂がもしあったなら、そういうことはできるだろうということだというふうに非難されるかもしれないけど。

だけでも時間がかかってもいいじゃないですか。だけど、本当の目指すところが、一体われわれ日本人はどこを目指しているのかというのを、どうも何かはっと気が付いてみると、何かものすごいでっかいコンクリートの山をつくって、はい整備終わったというような雰囲気のところがたくさんあるわけです。そうじゃない、本当のここに合った、ちょうどいいフィットして、海外から来るお客さんも1度あそこに見に行ってみよう、遊びに行ってみようというような雰囲気の、さっき言ったポルトガルのナザレみたいな、そういう所にやってこそ、初めて地域の発展というのがあるし、それから観光っていうのは、プロダクションがやっているのではなくて、人が来てくれるわけです。来て、お金を落としてくれる。こんないいことはない。高齢化社会だって何しろ、向こうからお金が、韓国とか中国からお金を持ってくる人が置いてくれるんだから、こんないい資源っていうのはな

いわけでしょ。だから、そういうふうに、何ていうかな、大事なものを壊さないで、うまく長い年月にわたって使えるような、そういうものになっていただければよろしいのではないかと。

で、最後になりますけど、ここで私、世界中いろんな所を回っているので、お前は特殊な例を言っているのだろうというのだったら、100カ所ぐらいほかの例をただちに言うことができるほどに、日本っていうのはちょっと、変じゃないかなと。いろいろ弁解というか、理由はあるのだけど、もうちょっといいものを目指すような社会になってもらいたいなど、私も日本人なもんで、そう思っています。以上です。